

2001年度の最初の学習会は6月3日(日)に行われました。テーマは「タイ・エイズ孤児と共に歩む会」についてです。タイのエイズ孤児を救おうと立ち上がった吉田登兄に呼応するように、港南台教会の教会員のボランティアとして発足した「タイ・エイズ孤児と共に歩む会」の紹介を兼ねての学習会でした。内容は、1月のタイ訪問のビデオと旅行報告、吉田兄へのインタビュー・ビデオ、エイズに対する最新情報など、変化に富んだものでした。参加者はそれぞれ身近な問題として捉え、また会に対しては、今後の問題点、会の進め方についても意見が出されました。参加者は54名(女性41名、男性13名)。また今回の昼食はタイ料理で、とてもおいしく好評でした(本紙後半にレシピあり)。

本年度も社会委員会は教会員のタレントを生かしたいと考えます。今回の「歩む会」もタレントが大いに生かされたものでした。年間の活動としては、平和問題の学習(8月)、介護問題の学習(10月)、寿町支援(12月)を継続して行いたいと思います。また障害児に関する学習会の開催が子どもの教会のリーダーから提起され、具体化に向け検討を進めていきたいと考えています。

私たちは兄弟姉妹と共に学び、共に活動していきたいと思います。今後も教会員・求道者の皆さんの参加・支援をお願い致します。(社会委員長：K.A)

社会委員会学習会 「タイ・エイズ孤児と共に歩む会」について

◆ 会長の挨拶

K.N

アジア太平洋戦争から50年以上がたちました。

私たちはここ数年沖縄、韓国、タイに自主研修の旅を続けて来ました。沖縄、アジアに対する戦争責任、戦後責任を少しずつ知る事が出来ました。実際に行って自分の目で見、耳で聞くことによって初めて平和と命の尊さが分かりました。日本人として特にキリスト者として事実を知り、それを認め、悔い改める機会が与えられました事を感謝しております。旅が終わるといつも私はこの償いきれない罪の前に途方にふれてしまいます。努力もせず、勉強もせず、静かな元の生活に戻ってしまいます。

この度タイを訪ねて吉田さんの活動にふれ、その姿に心を打たれました。このことは、こ

れから吉田さんやお2人のお話とビデオやスライドにより、皆様もご理解戴けると思います。

建物が出来ても、そこに住む子供たちは年間6万円の生活費が必要です。100人の子供たちの為には600万円が必要となります。この運営資金の調達が極めて困難であると聞かされました。私たちはこのうちいくらかでもお助けできるのではないかと話し合いました。貧困、麻薬、売春が三位一体となり、爆発的なエイズ感染者が発生、特に子供の性労働者や母子感染者が増え、その犠牲によりエイズ孤児が生み出された事を聞かされました。「私たちはその子供たちと共に幸せに生きるのだ」という考えのもとにこの会をつくりました。私はアジアの人々に対し、過去の戦争責任を謝罪する義務があると思います。

タイ旅行を終えて

T.T

「タイ旅行」の報告をかねて、発足いたしました「タイ・エイズ孤児と共に歩む会」の趣旨を少しでもご理解いただき、一層のご協力をお願いしたいと思います。

タイへは1月25日から30日、牧師先生をはじめ計10名の方々と、帰国なさっておられた吉田さんとご一緒に出発致しました。この旅行では、何ヶ月も前から石崎さんに色々とおアドバイスを受け、チケットの手配など大変お世話になりました。あらためて感謝申し上げます。

今回私たちが訪ねましたのは、バンコクの郊外にある「ナコンパトム」の「ハッピーホーム」とタイ北部の「パヤオセンター」です。「ナコンパトム」は「バンコク」から車で1時間半、時速100km以上のスピードで、ただひたすら走り続けると「ハッピーホーム」に着きます。バンコクを出ますと、一面緑一色の平地がどこまでも続きます。建物があまり目に入ってきません。「広いなあ」と感じながら景色を眺めていました。

この「ハッピーホーム」に入る子供たちは、親がHIVエイズに感染し、片親、両親を亡くした子供たちで、その多くは、「バンコクYMCAファウンデーション」の「社会開発部」が、支援している「橋の下」や「スラム」「困窮家庭」に育っている子供たちだそうです。3,000坪の土地と伺っていましたが、気の遠くなる広さと勝手に想像していたのですが、周りに家がありませんので、それほど広いとは思いませんでした。

建物は今、2棟が建てられています。この8月には3棟建つそうです。最終的には10棟が建ち、100人の子供たちを受け入れられるように計画されているそうです。バナナの苗木や実のなる木々が多く植えられていました。訪れた時は乾期でしたが、日頃から水の事情が悪くなくて、飲料水は何処か遠くからパイプをひいて来て「お金を払って買っている」と

話されていました。木々の為にも早急に井戸を掘りたいとの事です。建築費は1棟200万円だそうです。シンプルで明るく機能的に造られていました。建物が出来れば、現実問題として子供たちを受け入れ、子供たちが生活しなければなりません。子供1人の1年間の生活費は、日本円で6万円、500ドル必要との事です。

私たちは、4人のお子様と数人のスタッフの方々にお目にかかってまいりました。吉田さんから最近届いた「メール」に「ハッピーホーム」の事が綴られていますので、最後にお読みしたいと思います。吉田さんの熱い思い「1人の命でも救えるならば、行動したい」という、この思いに私たちは感動し、共感して今回の「タイ・エイズ孤児と共に歩む会」を発足させたわけです。どうぞ皆様月1回、皆様の昼食代をこの子供たちの事を覚えて、おさげ願えたらと思います。

日程の都合上「ハッピーホーム」には1時間位しか留まる事が出来ず、バンコクに戻りタイ北部の「パヤオ」に向かいました。「チェンライ空港」へは飛行機で1時間20分位で着きました。「チェンマイ」におられる澤田さんの弟さんの中村さんと「パヤオセンター」の方々を迎えて下さいました。車で、2時間半の所に「パヤオセンター」があります。この「パヤオセンター」は子供たちを買春から守り、就学の機会と職業訓練を施す施設で、ナコンパトムの「ハッピーホーム」とは姉妹関係の施設だそうです。ここでは今後「ハッピーホーム」の子供たちの為の食料も確保したいと努力していらっしゃいました。

職員8名、子供たち52名の大歓迎を受け、夕食は外の東屋で北部の風習にのっとり、4、5人ずつ小さなテーブルを囲んでいただきました。吉田さんはこの頃まだ、タイ語をあまり理解されていなかったと思います。それなのに「ハッピーホーム」でもそうでしたが、子供たちとの「コミュニケーション」は素晴らしいものがありました。その食卓で、私は吉田さんとご一緒でした。いろいろなお話を伺いました。その中で急に語気を強められて「この子供たちが売られて行くって許されて良いと思いますか。この子供たちがですよ。売られた後はお決まりのコースをたどり、決してそこから抜け出す事は出来ないのですよ。そして最後は病氣、死しかないのですよ。そんな事が許されて良いはずがありません」と話されるのです。その時私の両隣には17才と15才の少女がいました。年令よりもずっと小柄です。栄養が充分に取れなかったそうです。またそういうお子さんが多いそうです。その少女たちがジェスチャーをまじえて、私に「何歳か」とか、「これはこうして食べると良い」とか、「このミカンをどうぞ」とか、話しかけてくれるのです。私はその時、胸が一杯になった事を思い出します。

この少女たちの自立する手段の一つに刺繍があります。先日の「バザー」でも沢山の方々にお求めいただきましたが、これらの作品を販売し、現金収入を得ているのです。日本から

若い女性の方お一人が日常生活を共にしながら指導にあたられていました。収益の一部はこの子たちのおこづかいに、僅かですがあてられるそうです。私たちが翌日訪ねました山岳民族の方々の収入にもつながると伺いました。「パヤオセンター」の作品は丁寧で、美しく、とても良く仕上がっていますので、自信をもって皆様におすすり出来ると思いました。どうぞこれからも「プレゼント」等に是非覚えて下さいますようお願い致します。

最後になりましたが、吉田さんからの「メール」をお伝えして終わりに致します。

秋吉隆雄牧師先生

タイ・エイズ孤児と共に歩む会の皆さま

聖名を賛美いたします。

4月23日にナコンパトムのハッピーホームに行ってきました。12人の子ども達と職員6人が2棟のホームに楽しく暮らしていました。病気や空腹や恐怖から解放され、狭いながらもホームで安心して眠れます。子ども達に平安が与えられたことは感謝です。

手狭なため屋外で食事を作ったり、敷地内に畑を作り、野菜を育てたりの工夫をしていました。畑や果樹に掛ける水は近くの池からもらい水をしています。

今、タイでは学校は夏休みですが、学校が始まるとホームの子ども達は車でここから通います。ホームにはおんぼろながら車が1台あり、職員が運転して連れて行きます。

このホームがエイズ孤児の施設ということは、現段階では近隣には公表をしていません。子ども達が差別を受けることが心配されるからです。タイ社会がエイズ問題を避けて通れない現実がある以上、この地域にも社会開発が必要で、将来的には孤児センターがその中心的な役割を担うことになるでしょう。

今、新たに3棟の建設に着手しました。8月22日には落成式の予定です。YMCAでツアーを企画しているのでご案内が届くと思います。皆さんにお声をかけて下さい。

先日のバザーは如何でしたか、パヤオグッズの人気はどうでしたか？日本では新緑の季節でしょうか？こちらタイでは、そろそろ雨季の気配がしています。

5月3日 吉田 登

◆ タイ国訪問

A . H

ただいま田上姉から詳細報告がありました。小生も5分ぐらい報告するようにとのことですから、述べさせていただきます。

吉田さん、石崎さんよりタイの予備知識を前もって受けていましたので、ノートラブルで旅行できましたことを感謝します。訪問しましたタイの地図は今井さんが作ってくれました。

まず1月25日夕方バンコクに到着後、YMCA ホテルにて予備知識を得るため勉強会がありました。昨年12月のエイズ孤児センターの落成式の後、軌道に乗せる為の吉田さんをはじめ、YMCAの方々のご努力をうかがいました。

翌26日、バンコク西、約60kmにあります、ナコンパトムのエイズ孤児ケアセンターを午前中に訪問しました。昨年12月に落成した孤児センターで児童は2名でしたが、育ちつつある椰子やバナナの果実の木に囲まれた2棟で、明るく衛生的な印象を受けました。私と同じ様に真っ黒に日焼けした孤児の一人は、いきなり吉田さんに抱かれ、懐かしそうに吉田さんの髭を触っていました。まさに父親に再会できたような嬉しそうな顔は忘れられません。私たちは次の予定のため、昼前に出発しましたが、泣きながら職員に抱かれた孤児がまた可愛そうでした。5月3日の吉田さんからのメールでは、その後子供たちは12人に増え、病気、空腹、恐怖から解放され、生活できる様になったそうです。又、つぎの3棟の建設も着工されたそうで、8月22日が落成式と書いてありました。

午後はバンコクから空路チェンライへ、チェンライ空港から出迎えの中村昭雄さんの車とバスに分乗し、約2時間南へ下りパヤオセンターに到着しました。早速 YMCA の森さんの通訳で職員の方々から説明を聞きました。夕食に我々11名を招待してくれましたが、10歳位の少し太めの男の子がわたしの手を引いて、手洗いのための水をかけてくれました。どこの親父かわからない私に、心からのサービスをしてくれたようです。夕食はタイ料理で河魚の肉も手でむしり、ご飯も口に入るサイズに手で丸めながら頂きました。食事前に手洗いの意味がわかりました。歓迎の意味でしょう、生花で作ったレイを首に掛けてくれました。これも心のこもった贈り物でした。食事の後で男の子はタイのボクシングを、女の子は民族衣装をまとい、民族舞踏等を真剣に披露してくれました。夕食を共にした太めの男の子もボクシングを見せてくれました。レフェリーの態度も堂にいったもので、このようなスポーツに取り組みせる事は成長する子供たちに非常に良い教育である、と感じました。

翌朝、パヤオセンターで手に入れた田んぼを見学に行きました。田んぼの周りはぬかるんでいる事が予想されたので、我々に長靴を貸してくれました。貸してくれたゴム長は何時も農作業に使うものらしく、青いゴム長の外側は乾いた泥で白くなったものでした。私も自分

で持つつもりでしたが、昨夜のボクシングの二人の男の子が私と橘さんから大きなゴム長をとりあげ、小さな胸に抱えるようにして運んでくれました。此処まで優しい気持ちに育てられたのは、YMCA の職員の方々の努力があったからでしょう。ぬかるみは無く、また持ち帰ったゴム長の乾いた白い泥は T シャツにきれいにぬぐい取られ、新品のように青く光っていました。昨夜の女の子の衣装は YMCA の職員の方々の指導で作られた衣装でしょうか。縫製室も見学させてもらいました。小さな子供が裁縫するのも大変な事と思いますが、タイの人は手先が器用で集中して製作する能力を備えています。男の子まで根気のいる刺繍に打ち込んでいるのをみました。温かい気持ちのこもった作品は素朴な芸術品のようには見えました。

つけたし

5 月中ごろの NHK で各国のエイズの薬について放送していました。南アフリカでは国家が援助するようになったそうです。タイに於いても容易に入手できるように、一日も早くなってほしいです。エイズの薬の製法特許を所有しているアメリカの製薬会社は、何時まで権利を主張するのでしょうか、20 年は待てません。一日も早く特許を公開してほしいものです。



タイ料理レシピ

タイ・グリーンカレー

材料(4 人分)

グリーンカレーペースト	50 g
(カレーペーストの量により辛さの調節をする)	
サラダオイル	大さじ 3
とり胸肉 (一口のそぎ切り)	大 1 枚
たけのこ (細切り)	100 g
なす (8 つ切り)	3 個

フクロダケ（又はシメジ）	1/2 缶
ピーマン	2 ~ 3 個
スープ（水でも可）	300 ~ 400 c c
ココナッツミルク	1 缶（400 ml）
ナムプラー（フィッシュソース）	大さじ 2 ~ 3
カフィアライムリーフ	4 ~ 5 枚

作 り 方

鍋にサラダオイルを入れ、暖めてからカレーペーストを入れ、香りが出るまで炒める。

の中に鶏肉、筍、なす、フクロダケを入れて炒める。スープを加え、鶏肉が柔らかくなるまで煮る。

の中にココナッツミルク、ナムプラーを入れ、味を調える。

最後にピーマンを加える。

ト ム ヤ ム ク ン

材 料（4 人 分）

トムヤムペースト	1 袋（30 g）	レモン又はライム汁
有頭海老	8 匹	ナムプラー
フクロダケ（又はシメジ）	1/2 缶	香草
スープ（水でも可）		

作 り 方

水4カップに海老の頭を入れ、スープをとる。

トムヤムペーストを入れる。

海老、フクロダケ、香草の根を入れ、ナムプラーで味を調える。

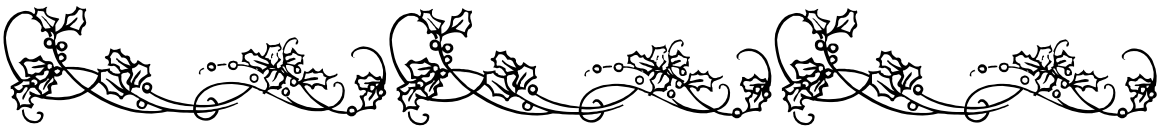
食べる直前にレモン又はライム汁を加える。

海老団子

むきえび、いか、卵白、塩、片栗粉をフードプロセッサーにかける。

丸めて油で揚げる。

スウィートチリ、ナムプラー、香草のみじん切りを混ぜたものにつけて食べる。



S.T

今年の一月に一時帰国をしていた吉田登さんと一緒に私たち10名がタイを訪れ、吉田さんとタイYMCAファウンデーションの皆さんが取り組んでいる活動と子供を実際に目にしたことによって、帰国する前の晩に何か私たちのできることを始めようということから始まった。そして、その思いは日増しに強くなり、3月に私たち9名で「タイ・エイズ孤児と共に歩む会」を立ち上げた。

この会を発足させる原動力は、吉田さんを抜きにしては考えられない。私たちは吉田さんとYMCAの現地職員の働きを通して、タイのエイズ孤児と連帯していきたいと思う。そして、この会に賛同してくれる人が港南台教会の会員に拡がり、更に他の教会員や、ノン・クリスチャンにも呼びかけて行くことによって輪を広げていきたいと思っている。今や、このことは現実のものになりつつある。

この会は、あまり窮屈な規則に縛られない、ゆるやかな活動体でありたい。共に歩み、共に成長していける、そんな関係でありたいものだ。

社会委員会からのお知らせ

次回の学習会は、8月5日(日)平和聖日礼拝後に開きます。東海林路津子さんに「女性国際戦犯法廷」について講演していただきます。多くの方々のご参加をお願い致します。